「うめ栽培で松野町に新しい風を！」

新改　和也（40 歳）　Ｕターン
（松野町）

１　就農の動機・理由

地元の食材を使ったスイーツを製造・販売する「菓子工房 KAZU」の経営をメインとしていたが、商品の営業活動をする中で“もっと素材のことを知らなければ、相手に商品の良さを理解してもらうことはできない”と感じ、農業の経験はほとんどなかったが就農を決意し、地元の園地を借り、うめ栽培を始めた。

２　農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営（令和２年 ）	現在の経営（令和５年）	将来の経営（令和８年）
労働力	男１人(本人) パート３人	男１人(本人) パート３人	男１人(本人) パート５人
経営耕地	樹園地　36ａ	樹園地　107ａ	樹園地　112ａ
経営内容	うめ　36a （成園：14a）	うめ　107a （成園：14a）	うめ　112a （成園:112a）

○農業用施設

農業用倉庫兼加工施設　１棟

○主要農業機械

軽トラック　１台
草刈機　１台

３　あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地　愛媛県松野町
職歴　食品メーカー等
就農年月　令和２年８月

(2) 就農時の思い

自身が製造する商品の理解を深めたいということから、うめ栽培を主体で取り組んでいきたいと考えた。

就農時は幼木の園地が多く、不安であったが、地域の農地を守るためにも、規模の拡大と成園化に向けた管理の両立を図っていった。

４ 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

地域の先輩農家や松野町農林公社に栽培管理の基本やコツを教えてもらいながら、栽培技術を習得している。

更に高度な栽培技術や経営診断等は県の普及指導員から指導を受けている。

(2) 資金の準備

基本的には自己資金で農業経営開始の準備を行った。当初、補助事業や資金制度に関する情報をインターネット等で収集していたが、十分な情報を得ることができなかった。役場や農業指導班に相談して、自身の経営内容に合ったメニューを導入することは重要だと感じた。

(3) 農地・住宅の確保

農地に関しては、地域の住民から得た情報や農業委員や役場に仲介してもらい、地域の耕作放棄地になる恐れがある園地を中心に借り受けていった。

住宅については、地元での就農のため、確保に問題はなかった。

(4) その他苦労したこと

就農を志した時は、農業の補助事業や制度資金の活用に関する情報をどのように集めればよいか分からなかったので、当初から役場や県の機関に相談すれば良かったと思う。

また、農業と菓子工房の経営のバランスを取りながら日々の仕事に取り組むことに苦労した。

5　農業経営の特徴

うめの栽培を中心とし、収穫物を活用した６次産業化にも取り組んでおり、特に梅シロップは人気商品で、首都圏の展示会等での販売も行っている。

さらに、青うめの販路を独自に確保し高単価で販売している。今後は、出荷可能な取引量を見極めつつ、園地の成園化の段階を考えた上で出荷量を増やしていくことを考えている。

6　これからの夢

うめ栽培については、化学農薬や肥料などの使用を控え、環境に優しい農業を実践していきたい。また、うめの園地を活用した消費者との交流活動等にも取り組んでいきたいと考えている。

ひとりの活動には限界もあるので、将来的には法人化し、地域の高齢者がいきいきと働くことのできる場所と機会をつくり、ふるさとを元気にしていきたい。

7　成功したキーポイント

青梅を高単価で取り扱ってもらえる販路を開拓できたことは大きい。うめは近年、消費者の健康志向もあり、需要が伸びると感じている。

また、自身の農作物や商品をお客様と直接、顔を合わせて販売する機会をつくることがPRに繋がっている。

8　就農を目指す方へのアドバイス

農業分野は補助事業や低金利融資等の制度が充実していると感じます。借金等のリスクを負うことにはなりますが、それらを上手に活用して、儲けることのできる農業経営の基盤をできるだけ早いうちに作ることが大事だと思います。

不安な方は、県や町の担当者、地域の農家さんに正直に相談してみるのも良いと思います。

○　指導機関からのひとこと

新改さんは地域の農業を牽引したい気持ちから新たな取り組みに積極的にチャレンジされています。今後は法人化等も視野に入れているとのことで、さらに松野町を盛り上げていってもらえるようなご活躍を期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室

鬼北農業指導班

電話番号 0895-45-0037

苗木の定植作業